

NEWS

01 新病院長のご挨拶

CONTENTS

- 02 眼科デイスার্ジェリー
- 03 歯の保存にこだわった治療の追求
- 04 放射線部が担う次世代がん治療
- 05 九州大学病院別府病院 市民公開講座を開催しました
- 06 九大病院トピックス
- 07 九大病院基金へのご寄附のお礼
- 08 九州大学病院広報誌「九大病院ニュース」創刊50号!



新病院長 ご挨拶

みんなで作る 新時代の九州大学病院

主な経歴

- 1990年 九州大学医学部卒業
- 1994年 Stanford University, research fellow
- 1998年 九州大学 整形外科 助手
- 2008年 九州大学 整形外科 講師
- 2012年 九州大学 整形外科 准教授
- 2016年 九州大学 整形外科 教授

新病院長 中島康晴

Yasuharu Nakashima

● 病院長就任にあたっての決意をお聞かせください。

九州大学病院は、1,362床(本院1,242床、別府病院120床)を有する国内有数の大学病院として、高度医療を担う拠点であると同時に、地域医療の最後の砦として重要な役割を果たしてきました。

私は2018年から副病院長として病院運営に携わり、コロナ禍をはじめとする数々の困難に直面してきました。しかしそのたびに、職員一人ひとりの力とチームワークで乗り越えてきました。この経験こそが、九大病院の底力と、未来への大きな可能性を示していると確信しています。

これから私は、九大病院をさらに進化させるために、次の4つの柱を軸に改革を進めていきます。「高度医療の推進と医療安全の徹底」「盤石な財政基盤の確立」「地域医療の中核としての使命の遂行」「未来を切り拓く医療人の育成」。

この4つを力強く推し進め、みなさんと一緒に新しい時代の九大病院を創っていきたいと思います。

Q 「高度医療の推進と医療安全の徹底」について、 1 どのように取り組んでいきますか。

A 九大病院は、「臨床研究中核病院」「がんゲノム医療中核拠点病院」など、日本の医療を牽引する役割を担っています。さらに、移植医療やロボット手術などの分野でも国内トップレベルの実績を有しています。これらの強みを最大限に活かし、患者さんが安心して最先端かつ最良の医療を受けられる体制をさらに強化していきます。

その基盤となるのが医療安全です。医療安全の仕組みをより強化し、職員一人ひとりが主体的にリスク管理に取り組む文化を根付かせ、「安全はすべてに優先する」という意識を組織全体で共有していきます。

Q 厳しい社会状況の中、財政基盤をどのように 2 確立していきますか。

A 医療資源や人件費の高騰により、大学病院の経営環境は年々厳しさを増しています。その中で当院では、経営委員会・経営戦略センターを中心に職種横断の改善体制を構築し、病床稼働率の向上や薬剤・医療機器の価格交渉など、着実な改善を積み重ねて財政基盤を強化してきました。今後はこれをさらに発展させ、**診療プロセスの見直し・業務の効率化・医療資源の最適配置**を進め、持続可能で強い経営体制を構築していきます。

加えて、外部資金の獲得、産学連携の強化、寄附の活性化など、多様な財源を確保し、将来を見据えた経営基盤を築きます。

Q 地域医療の中核として、どのような役割を 3 果たしていきたいとお考えですか。

A 九州大学病院は、地域の病院や診療所、行政との連携の中で成り立っている病院です。特に、高度医療や重い合併症を持つ患者さんに対して、質の高い総合的医療を提供することは、私たちの最も重要な使命です。さらに、災害や感染症流行といった有事においても、迅速かつ的確に対応できる体制が求められます。

そのために、地域の医療機関との連携を一層強化し、より強固でしなやかな地域医療ネットワークを構築していきます。

Q 医療人の育成に関する考えについて 4 教えてください。

A 九大病院が目指すのは、単に技術に優れた医師だけではありません。高度な専門性に加え、**全人的な視点・高い倫理観・医療安全への深い理解**を備えた医療人を育てます。また、アジア遠隔医療開発センターなどの資源を活用し、世界で活躍できる人材を育成します。さらに、「きらめきプロジェクト」に代表される多様な働き方の推進により、誰もがキャリアを継続し、成長できる環境を整えます。全職員が誇りを持ち、挑戦できる病院こそが、未来を創る原動力になると考えています。



手術中の様子



学会発表にて



整形外科のメンバーと

未来に向けたメッセージ

九州大学病院は、長い歴史の中で多くの人の努力と志によって発展してきました。

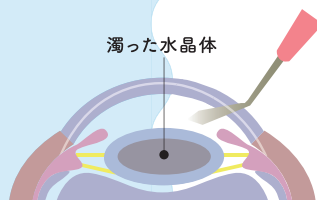
私はそのバトンを受け継ぐ者として、「患者さんに満足され、医療人も満足し、医療の発展に貢献する九大病院」という原点を大切にします。そして、地域とともに歩みながら、未来の医療を創造する病院へ。みんなで創る、新しい時代の九大病院へ。

その実現に向けて、全力で取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いたします。



Kyushu University Hospital,
Ophthalmology眼科
デイ
サージェリー自宅からの通院で
白内障手術を
受けられます村上 祐介 | 眼科/准教授
園田 康平 | 眼科/教授

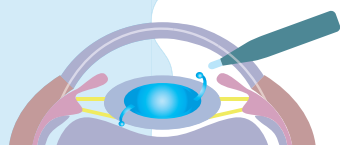
白内障の手術

濁った水晶体を取り除き、
眼内レンズを挿入する

切開する



濁った水晶体を砕き吸い出す



眼内レンズを挿入する

経験豊富なチーム×最新機器で、
安心の白内障手術

白 内障は加齢に伴って誰にでも起こりうる目の病気です。白内障手術は、濁った水晶体の中身を超音波で取り除き、代わりに眼内レンズを挿入する手術で、局所麻酔のもと短時間で終わられるのが特徴です。安全性の高い手術ですが、目の状態によ



っては高度な技術を要する難しいケースもあります。九大病院では、経験豊富な術者と手術部スタッフ、最新の手術機器をそろえ、あらゆる症例に対応できる体制を整えています。眼内レンズも最新のレンズを使用しており、乱視矯正や多焦点にも対応しております。安心してご相談ください。

入院しなくても白内障手術が
受けられるようになりました！

これまで九大病院の白内障手術は、すべて入院（主に2泊3日）で行ってきましたが、住み慣れたご自宅から通院し、日帰り手術を受けたいというニーズも増えてきています。そこでこのたび、九大病院の充実した手術環境はそのままに、外来から手術室へ直接アクセスできる体制を整え、デイサージェリーを開始しました。手術当日は外来で点眼などの準備を行った後、手術室に移動します。手術後はリカバリー室で約1時間安静にお過ごしいただき、その後帰宅となります。翌日以降は外来通院となりますが、入院手術と変わらない質の高い医療を、日帰りを受けられるようになりました！デイサージェリーをご希望の方は、眼科外来で担当の医師・看護師までお気軽にお問い合わせください。



多職種でデイサージェリーに取り組んでいます

問い合わせ先／眼科外来 092-642-5660（平日のみ 9:00～16:00）



Kyushu University Hospital,
Endodontics

歯の保存に こだわった 治療の追求

吉田 晋一郎 | 歯内治療科/助教

歯 内治療科では、むし歯の治療（保存修復治療）や歯の根の治療（歯内治療）など、歯を残すことを目的とした治療を専門としており、その領域の学会認定医および専門医が在籍して、高度で確実な診療を行っています。また、口腔外吸引装置の使用によるエアロゾル対策を行い、様々な感染症に対する感染予防に努め、患者さんが安心して治療を受けられる体制を整えています。



保存修復治療

む し歯の治療では、歯を削る量を可能な限り少なくし、歯質や歯の神経を残すような治療方針で取り組んでいます。また、削った後には、コンポジットレジン充填やセラミックインレーなどによる審美性を重視した修復処置を行い、自然な色調を取り戻せるよう心がけています。また、ホームホワイトニングやオフィスホワイトニング等、歯の漂白治療についても当科で担当しております。



修復画像

歯内治療

「根 管」と呼ばれる歯の根の中の管を治療する歯内治療では、非常に細かい作業が必要となります。そのため、歯科用実体顕微鏡やコーンビームCT撮影を用いて正確な診査・診断を下し、精密な治療を心掛けています。従来のステンレススチール製の治療器具に加えて、最新のニッケルチタン製の器具も駆使しながら、難易度の高い、曲がった根の治療



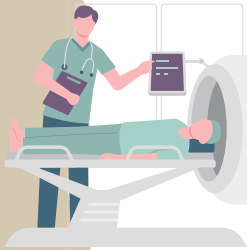
顕微鏡下での治療

にも対応しています。難治症例に対しては、MTAセメントを使用した歯根端切除術や意図的再植術を行うなど、外科的歯内療法にも積極的に取り組んでいます。また、歯の根が割れてしまい、抜かなければならないと判断された歯でも、当科での治療で歯が残せる場合があります。

— のように当診療科では、なるべく歯を削らず、なるべく神経を抜かず、なるべく歯を抜かず、をコンセプトとした治療方針のもと、できるだけ患者さん自身の歯で生活していただけるよう歯を残し、患者さんの健康を守りQOLの向上に貢献することに努めています。



問い合わせ先／歯内治療科外来 092-642-6430(平日のみ 8:30~17:00)



放射線部が担う 次世代がん治療 進化する核医学医療

小林 幸次

医療技術部
放射線部門
副診療放射線技師長



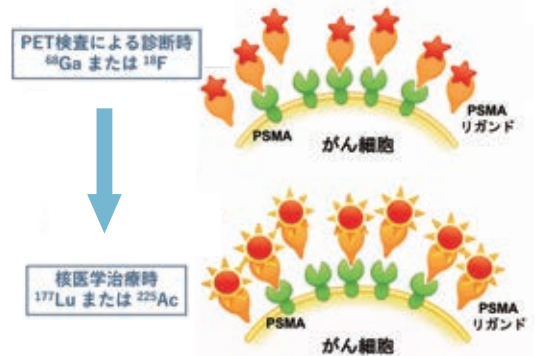
スタッフ集合写真

放 射線部門は、X線撮影やCT・MRIによる画像診断、放射線治療、核医学検査など、最先端の装置と技術で医療を支える部門です。

今回は、核医学で注目されている、診断と治療を一体的に行う「セラノスティックス(Theranostics)」をご紹介します。セラノスティックスとは、がん細胞表面の抗原に結合する物質(リガンドと呼ぶ)に、診断用の放射性物質を付与して病変を特定し、続いて同じリガンドに治療用の放射性物質を結合させ、体内のがん細胞を選択的に治療する方法です。

本院は最新鋭のPET、SPECT装置を備え、病変の精密な可視化と治療が可能です。神経内分泌腫瘍に対するルタテラ治療や神経芽腫などに対するライアット治療に加え、前立腺がんに対するPSMA治療を九州で最も早く導入し、地域に先駆けてセラノスティックスを展開してきました。現在は6室ある専用病室も、需要の増加に合わせ8室へ増床を予定しています。

放射線部門は、これからも安全で質の高い先進医療の提供に努めてまいります。



去勢抵抗性前立腺がんにおけるセラノスティックスの模式図

問い合わせ先/放射線部 核医学・PETセンター受付 092-642-5821(平日のみ 8:30~17:00)

九州大学病院 別府病院 市民公開講座を 開催しました



九 州大学病院別府病院では、診療内容を広く市民の皆さまに公開し、別府病院への理解と信頼を深めていただくため、市民公開講座を実施しております。

今回は、「人生100年時代を生き抜く体づくり－九州大学病院別府病院からの提言－」をテーマに、令和7年11月16日(日)にビーコンプラザ中会議室(別府市山の手町12-1)にて開催いたしました。三森功士病院長が座長を務め、外科、整形外科、婦人科の医師がそれぞれのテーマでわかりやすく講演を行いました。今後も、市民の皆さまに役立つテーマを取り上げ、定期的で開催してまいります。

講演テーマ

そうだ乳癌検診、行こう

乳腺外科/助教
安東 由貴

股関節の痛みをあきらめない －変形性股関節症の診断と治療－

整形外科(関節外科)/助教
原 大介

健やかな生活のために －婦人科からのお手伝い－

婦人科 診療科長/准教授
園田 顕三



(左から) 三森病院長、園田准教授、安東助教、原助教



講演の様子

ソフトバンクホークス 小久保監督が小児医療センターを訪問

2026年1月26日、小児医療センターを、福岡ソフトバンクホークスの小久保裕紀監督、ハリーホーク&ハニーホークが訪問されました。

入院中の子どもたちには、タオルやステッカーなどのプレゼントをしてくださいました。また、サインや写真撮影にも応じていただき、子どもたちは楽しい時間を過ごすことができました。

また、昨年、完全優勝を約束した子どもとの再会がありました。

約束を見事に果たされた小久保監督を、子どもたち手作りのくす玉でお祝いしました。子どもたちや保護者にとって元気をいただく貴重な機会になりました。

今年も応援しています！



スタッフ集合写真



プレゼント贈呈



院内学級の子どもたちがくす玉でお祝い

九大病院基金へのご寄附のお礼

九州大学病院基金へ多大な貢献をいただきましたことに感謝の意を表し、ご寄附いただいた皆様のご芳名を掲載させていただきます。

2025年9月1日から2025年12月31日までにご寄附いただいた方のご芳名を掲載しております(五十音順)。公表を希望されない方は、掲載していません。



■ 個人の皆様

阿南 恭子様 池尻 又一様 池田 愛恵様 石橋 佳子様 和泉 早織様 今泉 友厚様 梶田 茂様
日下部 豊様 志水 高子様 高椋 正年様 中島 信隆・直美様 仲曾根 昇様 中村 隆彦様 野尻千香子様
橋爪 妙子様 花岡 信一様 林 親則様 原田 大輔様 藤田 敦子様 森山 玲様 渡辺 拓様

他8名(計29名)

■ 企業・団体等の皆様

社会医療法人財団白十字会 白十字病院 様

他2企業・団体(計3企業団体)

九州大学病院基金はクレジットカードもしくは金融機関からの振り込みでお受けします。

詳細はホームページをご覧ください <https://www.hosp.kyushu-u.ac.jp/info/kikin/>



九州大学病院広報誌 「九大病院ニュース」 創刊50号!



2005年6月に1号を刊行してから、今号で50号を迎えました。

数回のデザインリニューアルを経て、現在のデザインとなっています。

過去約20年に発行してきた号を振り返ると、北棟・外来診療棟のオープンや新型コロナウイルスへの対応など、印象深い出来事も紹介されています。

今後とも、みなさまに役立つ情報をお届けしてまいりますので、ご覧いただけますと幸いです。

1



2



3



4



5



Back number

- 1 2005年6月 [1号]
- 2 2009年9月 [特別号]
(新外来診療棟完成)
- 3 2015年9月 [26号]
- 4 2020年11月 [特集号]
(新型コロナウイルスへの取組)
- 5 2023年7月 [42号]

